

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第18号(平成23年12月発行)

さる10月17日(月)に平成23年第3回定例会が開会され、同月27日(木)に一般質問が行われ、議案1件が可決、認定議案2件が認定され閉会しました。

今回は、森康哲議員(四日市市議会選出)、津田健児議員(三重県議会選出)の二人が四日市港港湾行政に関する質問を行い、管理組合執行部に答弁を求めました。

主な質問・答弁要旨

森康哲 議員



○ **四日市港の港湾サービスの向上や大規模災害における代替性の確保等の面からも震4号幹線の整備は大変重要だと思う。しかし、この事業はバブル期の計画で、社会経済情勢が当時から大きく変化している中、震4号幹線のルートショートカットの検討を含めたあり方に対する所見を伺いたい。**

◎ 震4号幹線の計画については、賛成、反対様々な意見があることは認識しています。特にルートについては、企業立地等の面からすると、高速道路へのアクセスは生命線の1つであり、ひいてはこの地域の経済活力の低下を防ぐことになると考えています。現時点においては今の計画どおりのルートでのアクセスを円滑にすることが大切かと考えていますが、一方、議員ご指摘のように、この事業のあり方に関し、地域住民の方々をはじめ多くの方の思いがあるのも事実ですので、ご理解いただけるようにしっかり説明させていただきながら、今後とも国等に対して整備促進を強く働きかけてまいりたいと考えています。

津田健児 議員



○ **平成12年に設置された行政改革推進委員会において、港湾整備における専門的知識等の観点からプロパー職員の拡充を図るべきとまとめられているが、現在の職員構成をみるとプロパー職員が全体の約25%となっており、プロパー職員については、更なる充実を図るべきと考えるがご所見を伺いたい。**

◎ プロパー職員については、海事関係の専門的な知識を有する者として、特に管理課へ職員を配置しています。

港湾の管理、運営に関する職員の専門性を高めていくことは議員ご指摘のとおり必要であると思っており、プロパー職員の有する専門的な知識や能力を港湾業務全般で活用していくことは今後ますます重要になっていくと考えています。

今後とも、中期的な観点から職員構成、配置、プロパー職員の採用のあり方・処遇等について検討し、またプロパー職員を、例えば経営企画の分野など海事関係以外の分野へ積極的に配置および登用できるよう検討していきたいと考えています。

※詳細な質問答弁等については、当組合議会ホームページ会議録をご覧ください。